西濃農林事務所の普及活動状況（令和８年２月）

今月の重点活動

■農林事務所　西濃農業の活性化をめざすセミナーを開催（２月９日）

農林事務所（共催：JAにしみの、西南濃農業普及事業推進協議会）は、ソフトピアジャパン（大垣市）において、西濃農業の活性化をめざすセミナーを開催した。営農組織の代表者や関係者、約140名が出席した。

農林事務所は「梨産地の危機～担い手確保に向けた取り組み」、ＪＡにしみのは「水稲栽培における堆肥活用による環境調和型農業の確立に向けて」と題し、成果発表を行った。また、合同会社アグリビジネスパートナーズの高津佐和宏氏より「金持ち農家、貧乏農家」と題した講演があり、お金をかけずにできることをまずは実践し、変えるのは「考え方」と「行動」というメッセージが贈られた。

【 セミナーの様子 】

農林事務所は、今後も生産者に訴える研修会を企画し、情報発信していく。

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士　調査研究活動報告会及び青年農業士との意見交換会を開催（２月24日）

ＪＡにしみの中部支店において、指導農業士調査研究活動報告会及び青年農業士との情報交換会が新たな取組みとして開催された。

報告会では、指導農業士が今年実施した農業経営視察等について発表し、会員内での情報共有と情報交換を行った。参加者らは興味深く報告を聞き、刺激を受けたようであった。また、管内の青年農業士との活発な意見交換も行われ、交流を深めることができた。

農林事務所では、引き続き指導農業士に活動を支援していく。

【 報告会の様子 】

■農福連携　農業体験講座の開催（１月27日）

農福連携農業体験講座（主催：(株)ジーステラ　エンタープライズ、ぎふ農福連携推進センター）が、県就農支援センターにおいて開催された。

障がい者が農作業の基礎知識や技術の習得を目指すとともに、トマト生産者と福祉事業者が課題等を意見交換することが目的である。

海津トマト部会から生産者６名、近隣福祉事業所の職員６名が参加し、トマトの葉かき体験や意見交換が行われた。また、障がい者雇用を行っている（株）アグリピアから農業と就労支援それぞれの目線からの事例報告が行われた。

【農業体験講座の様子】

農林事務所は開催にあたり、出席の呼びかけや意見交換が円滑に進むよう支援した。労働力不足が深刻化する園芸産地の多様な担い手を確保するために、今後も農福連携を支援していく。

■カキ　城山小学校５年生、カキの粗皮削り体験（２月13日）

海津市立城山小学校の５年生に対し、南濃町羽沢のカキ園で粗皮削りの授業が行われた。農林事務所は粗皮削りを行う目的を説明し、実演。その後、児童は粗皮削りを体験し、児童の質問等に答えるなど対応した。

農林事務所では、今年度この５年生に対して、摘蕾、摘果、収穫、粗皮削りの計４回の授業の支援を行ってきた。体験を通じて、地域の特産品であるカキに関心をもってもらえれば幸いである。

【粗皮削り体験の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■（農）室原営農組合　ぎふ清流ＧＡＰ審査（キャベツ）の実施（２月 17 日）

養老町の(農)室原営農組合において、ぎふ清流ＧＡＰの審査が行われ、ぎふ清流ＧＡＰ推進センターの職員による審査項目ごとの質問事項に対し、営農組織の担当者が回答を行った。

今回の審査後、１カ月間の是正期間があるため、指摘事項を再整備し、３月までに改善できるよう、農林事務所は引き続き支援を行っていく。

【GAP 審査の様子】

■甘長ピーマン　天敵によるコナジラミ対策を打ち合わせ（２月 10 日）

甘長ピーマン栽培では、生育後半にコナジラミ類の防除に苦慮する農家が多く、新たな技術対策が必要となっている。そこで、天敵利用（ｽﾜﾙｽｷｰｶﾌﾞﾘﾀﾞﾆ）を希望する２名の農家宅で、業者を交えた打ち合わせを行った。

業者からの天敵の生態や天敵導入時の注意点の説明後、天敵の放飼時期等の調整を行った。２名の農家とも苗が３月 19 日に納品され、その後定植となることから、定植２週間後に再度業者に来てもらい、天敵の放飼時期を決定する予定である。

農林事務所は、天敵によるＩＰＭ技術確立に向け支援を継続していく。

【打ち合わせの様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■　ブロッコリー　高温対策（紙マルチ試験）の収穫期調査を実施（２月６日）

ブロッコリーの高温対策として紙マルチ試験（主催：JA 全農岐阜）を大垣市で実施しており、全農、ＪＡ、メーカー、農林事務所による収量、品質調査を行った。

今作は、定植期以降の気温が前年より低く推移し、全体的に前作より収穫時期が遅くなっている中、初期生育は慣行区の方が良い。実証生産者からは、試験区の紙マルチの表が白色で、慣行区の生分解性マルチの色が黒色のため、気温が低い場合は黒色の方が良いのではとの感想があった。

農林事務所では、今後調査データをまとめ、ブロッコリー生産販売会議で結果報告する。

【収穫期の状況】

■きゅうり　海津胡瓜部会技術勉強会を開催（１月 22 日）

ＪＡにしみの海津胡瓜部会は、技術係と青年部が中心となり、技術勉強会を海津中支店にて開催した。

勉強会は、サカタのタネを講師に、ＢＳ資材と環境制御装置について行われ、大変多くの参加があった。ＢＳ資材は各資材の特徴や使用方法について、環境制御装置は比較的安価なモニタリング装置やコストについて説明があった。青年部は特に後者について質問があり、関心が高かったようであった。農林事務所からは、スマート農業技術導入支援事業について紹介し、補助事業を計画的に活用するよう提案した。

農林事務所では引き続き、厳寒期から春先に向けての栽培管理と補助事業を活用した計画的な農業機器の導入について支援していく。

【勉強会の様子】